

「保健医療科学」
第73巻 第4号 予告

特集：多様な分野の行動変容研究と社会実装の現在

ナッジと行動変容 ―科学に基づく新しい政策アプローチ― (仮題)	池本忠弘
歯科保健医療分野における行動経済学の活用を考える (仮題)	福田英輝
ベイジアンネットワークによる生活者デジタルツイン構築技術と意識・行動変容支援技術への応用 (仮題)	本村陽一
コロナ禍およびポストコロナにおける規範的意思決定とその数理モデル (仮題)	村上始
健康で快適な住まいの選択行動 (仮題)	本間義規

編 集 後 記

医療の分野においては質の向上や質の評価・公表に関する取り組みが普及している。質の評価や公表が医療の質の向上に寄与するかは議論があるところではあるが、現状を可視化し、その結果に基づき改善活動を行うことが有用であると言われている。介護保険分野では介護保険制度導入後すぐに質の評価に関する検討は行われており、現在は介護の質に関する情報の蓄積と並行して介護報酬における質の向上に対するインセンティブも導入されているが、質の評価・向上に関する取り組みはまだまだ発展途上である。また、「保健医療科学」第72巻第5号の特集において取り上げた介護保険における保険者機能強化も高齢者介護の質向上にむけた取り組みの一つと言える。

本特集は日本を含む東・東南アジアを中心とした介護にかかわる制度や介護の質向上に関する取り組みについて解説したものである。東・東南アジアにおける医療・介護制度の現状、介護サービスの質評価、リハビリテーション、歯・口腔健康、支援機器やテクノロジー、Health Agingなど多様なテーマを取り扱った。本特集号により、介護にかかわる制度や介護の質向上に関する理解が深まり、介護の質向上の取り組みの活性化の一助となれば幸いである。

(保健医療経済評価研究センター 岩本哲哉)